

誓いの言葉

肌寒い風が吹きつつも、春の暖かい日差しが照らす今日、私たちは卒業を迎えました。

本日は私たちのためにこのような素晴らしい式を開催していただき、卒業生一同御礼申し上げます。教職員の皆様を始め、ご来賓の皆様、保護者の皆様、この場にご臨席下さり感謝申し上げます。また、オンライン配信を通じてこの卒業式をご覧いただいている保護者の皆様にも、心よりお礼申し上げます。

期待と不安に駆られながら地元を離れ、初めて一人暮らしをし大学生活を始めてからあっという間に四年が経ちました。二年次には、コロナ禍でオンライン授業になり、環境の変化に戸惑うとともに見つめ直す時間が多くありました。また、就職活動という大きな岐路において、様々な経験をした人も多いと思います。

私は特に、ラグビー部のマネージャーとして活動し、とても成長できました。創設当初はコロナ禍でチームの活動が制限されていましたが、今では他の大学との対戦も増え、関東リーグの5部から3部へと昇格しました。そのような環境下で、遠征の準備や手続き、大学外の方々とのやり取りなど、新しい経験をたくさんさせていただきました。前例がないからこそ、どのようなことをしたらよいのか試行錯誤をしながら取り組んだ経験は、私にとって大きな財産になりました。様々な知見を教えていただきご指導くださった谷崎監督や、ともに過ごした頼もしい部員のみんな、ご協力いただいた教職員の皆様には、心から感謝しています。

また、この四年間、豊富な知識や経験を持つ先生方や多くの友人のお陰で、勉学や研究に励むことができました。実習やグループワークなどでは、先生方にご指導いただきながら、仲間とともに切磋琢磨し、より多くの学びを得ることができました。先生方には、学問以外においても、人前での態度や社会人としての姿勢など、多くの事柄を教えていただきました。これら大学で学んできたことは、必ず今後活かしたいと思います。

明日から、私たちはそれぞれが選択した道に進みます。これから想像もできないような苦難や課題があるかと思います。しかし、自分なりに問いながら、答えを出し続けなければなりません。これからの人生において、立ち止まってしまう度に、この大学での学びの意義を心に留め、一人一人が託される役割を果たし、より成長していきたいと思います。

最後になりますが、渡辺学長をはじめ諸先生方、職員の皆様、そしてこれまで支えてくれた家族に改めて御礼申し上げます。そして、新潟食料農業大学の更なる繁栄と、皆様方のご活躍を祈念いたしまして卒業生代表の誓いの言葉といたします。

二〇二三年 三月十一日
食料産業学部 食料産業学科

河野 有沙